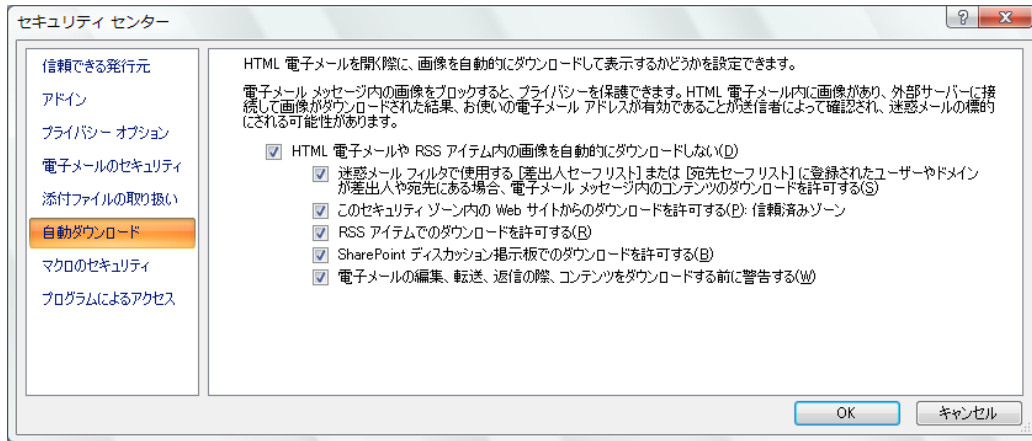
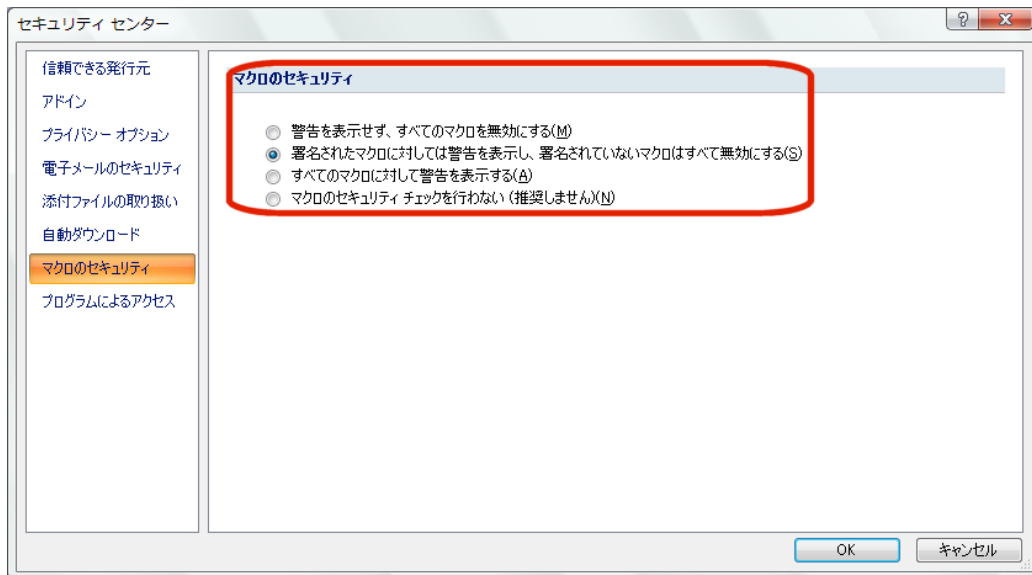


「自動ダウンロード」の各項目は標準のままが良いでしょう。

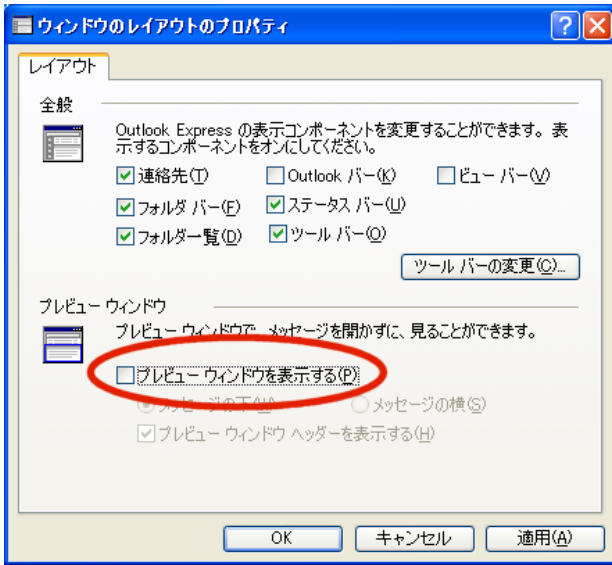


「マクロのセキュリティ」は



標準の「署名されたマクロに対しては警告を表示し、署名されていないマクロはすべて無効にする」を選択しておきます。

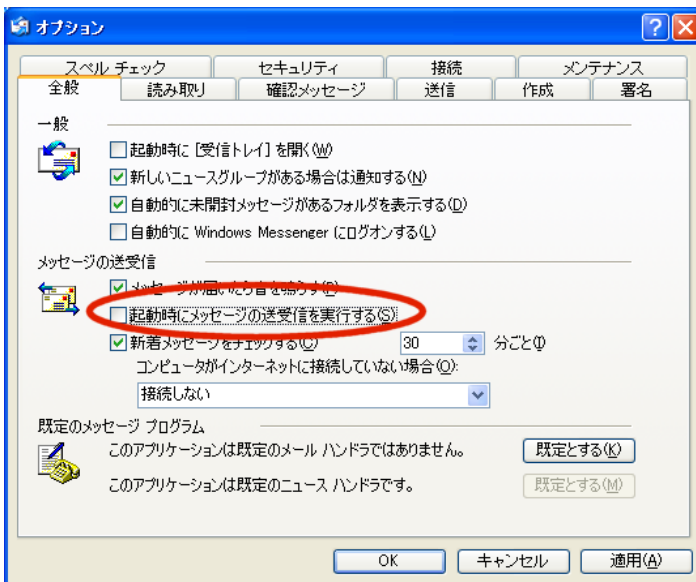
Outlook Express 6 の場合



まず、最初に受信トレイを開いておきます。その状態でないと設定ができません。受信トレイが開かれた状態でメニューバーの[表示]-[レイアウト]を選びます。

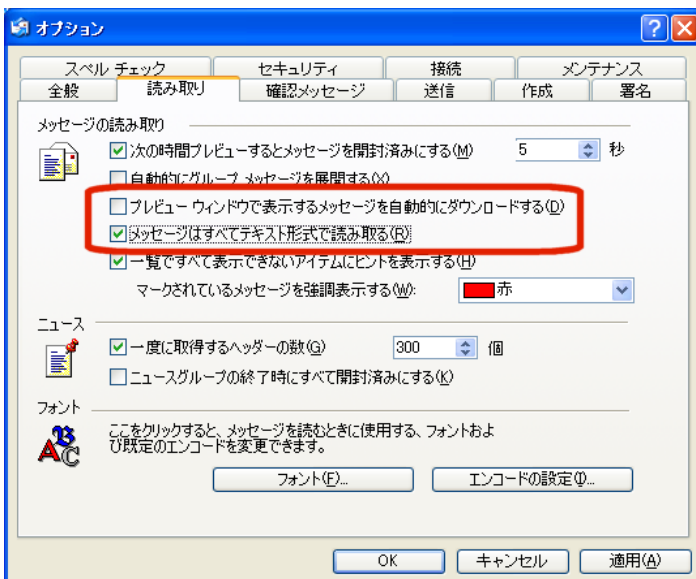
「プレビューウィンドウを表示する」にチェックがついていますので、このチェックをはずしてください。

これで不用意にウイルスが仕込まれた HTML メールなどを開かなくて済みます。



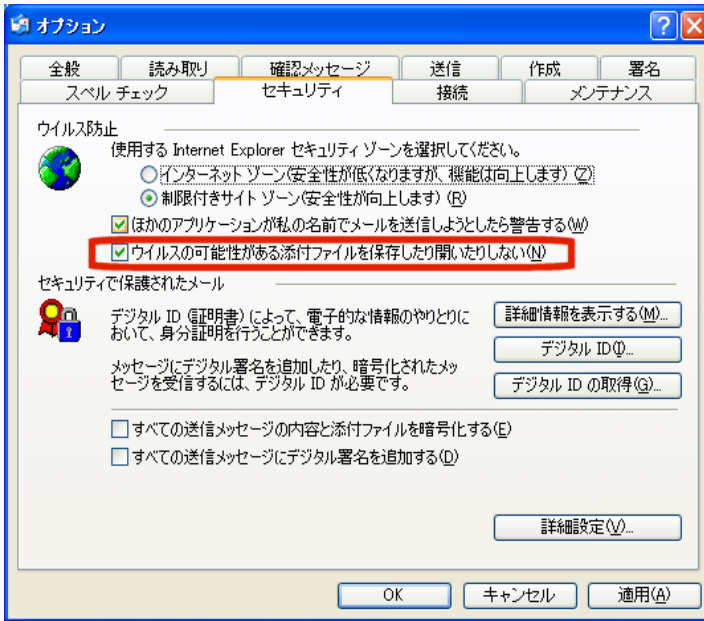
次にメニューバーの[ツール]-[オプション]の設定を行いましょう。

Outlook の時と同様に「全般」-「メッセージの送受信」で「起動時にメッセージの送受信を実行する」のチェックをはずしておきましょう。



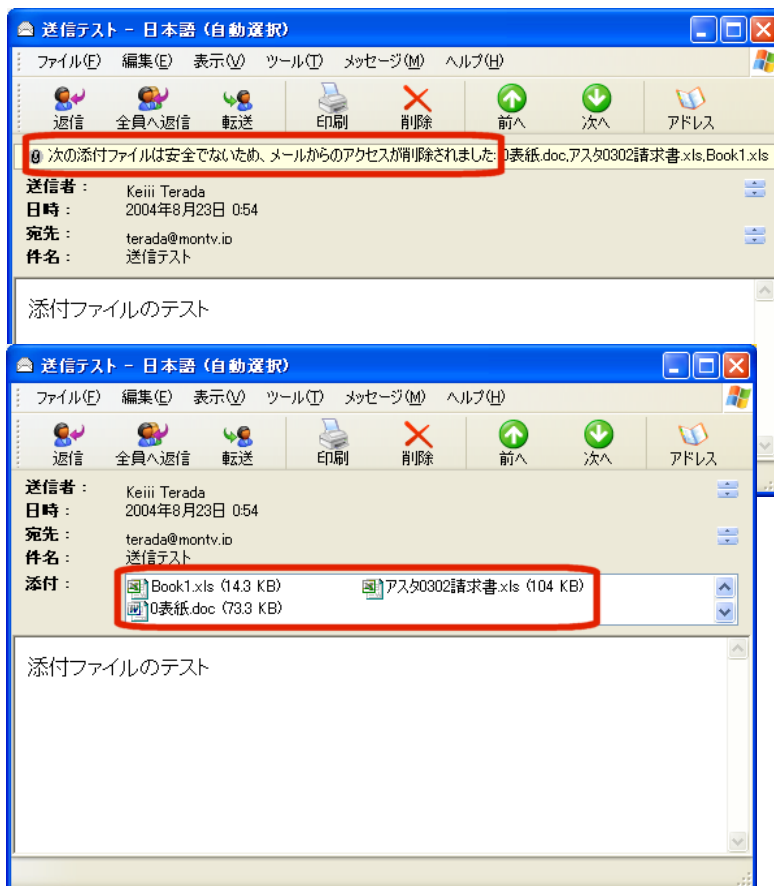
「読み取り」-「メッセージの読み取り」では「プレビューウィンドウで表示するメッセージを自動的にダウンロードする」のチェックをはずし、「メッセージはすべてテキスト形式で読み取る」のチェックを入れます。

「セキュリティ」の項目に「ウイルス防止」の設定がありますが、ここで問題があります。



この「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない。」という項目が標準でチェックされています。しかし、この設定では添付ファイルのついたメールの添付ファイルが保存できません。これは「ウイルスの可能性」というのが通常のウイルス対策ソフトのようにファイルそのものを調べてチェックしているわけではなく、拡張子と呼ばれるファイルの種類を判別しているだけだから

です。標準ではほとんどのファイルがこの対象になっています。



そのためこの状態で添付ファイル付のメールを受け取っても添付ファイルを保存したり、開いたりすることができません。

(実際は一時ファイルとしてパソコンの中には保存されています。)

添付ファイルを保存あるいは開くには、先ほどの[オプション]の「セ

キュリティ」で、「ウイルスの可能

性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない。」という項目の

チェックをはずしてから、再度メッ

セージを開くと添付ファイルを保存することができます。保存したら

再びチェックを入れておくと安全

です。ブロックするファイルの種類は自分で設定することができます。

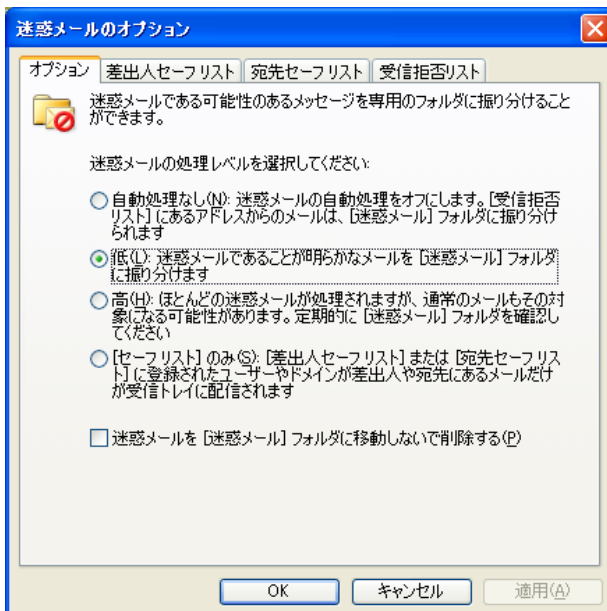
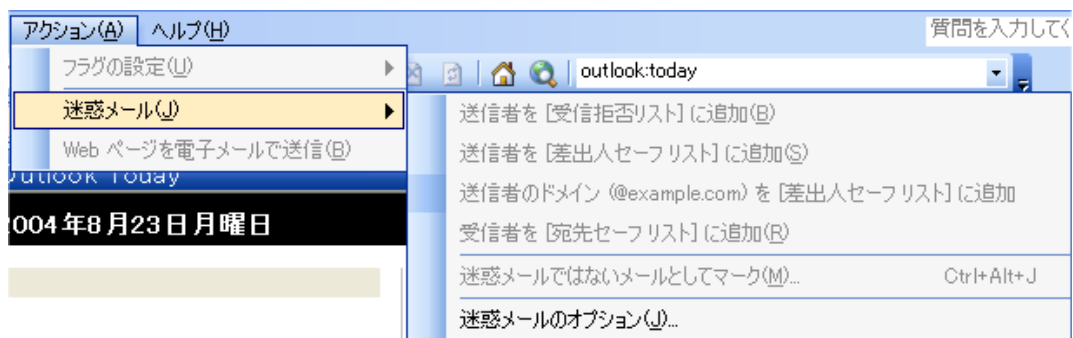
迷惑メール

迷惑メールもウィルスメール同様、プロバイダのサービスを利用するのが良いでしょう。利用しているプロバイダのサービスを確認しましょう。

もうひとつは自分自身のメールソフトの設定をすることです。ここでは Outlook と Outlook Express の設定をみてみましょう。

Outlook 2003

メニューバーの[アクション]-[迷惑メール]-[迷惑メールのオプション] を開きます。



標準では「低」の設定になっています。「高」「低」の基準はマイクロソフトが行っているもので英語の迷惑メールには有効ですが、日本語の迷惑メールにはあまり有効ではないかもしれません。

「自動処理なし」で個別に迷惑メールの送信者を「受信拒否リスト」に追加して行うとか、「セーフリスト」で「差出人セーフリスト」「宛先セーフリスト」に乗っている人以外は

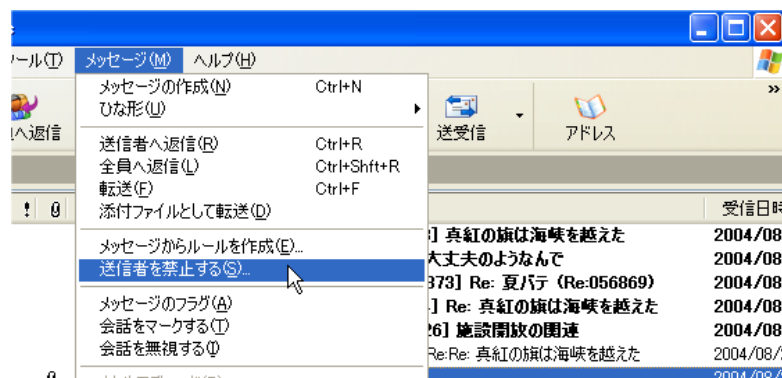
受けないという方法もあります。

メッセージを選んでメニューバーの[アクション]-[迷惑メール]で受信拒否にしたり、セーフリストに載せたりできます。

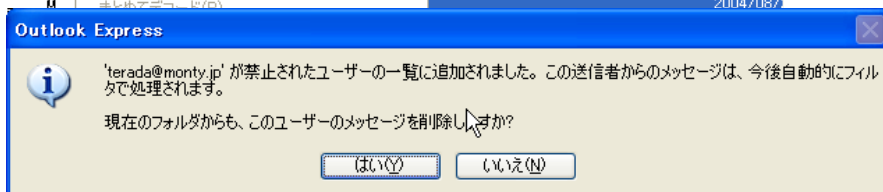
Outlook Express 6

Outlook Express の場合は、「メッセージルール」という振り分け機能を使います。

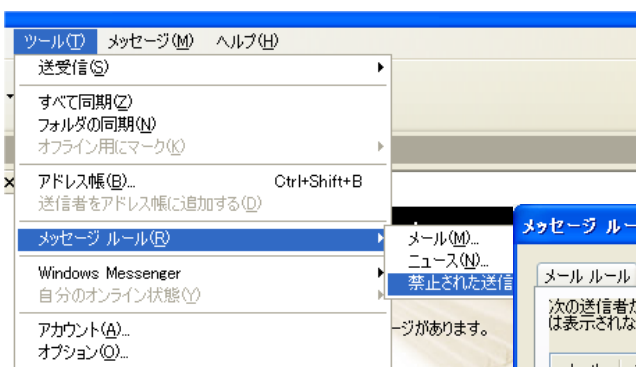
通常の振り分け機能ではメールマガジンと仕事とプライベートという風に自分で作成したフォルダなどに一定のルール（例えば、送信者、件名、受信者など）で振り分けたりします。この機能を用いて迷惑メールを受け取ったらそれらをルールとして登録すれば次からいちいち目にすることなく自動的にフォルダに移動したり、削除したりすることができます。



迷惑メールの対象となるメールを受信トレイで選択し、メニューバーの[メッセージ]-[送信者を禁止する]を選びます。

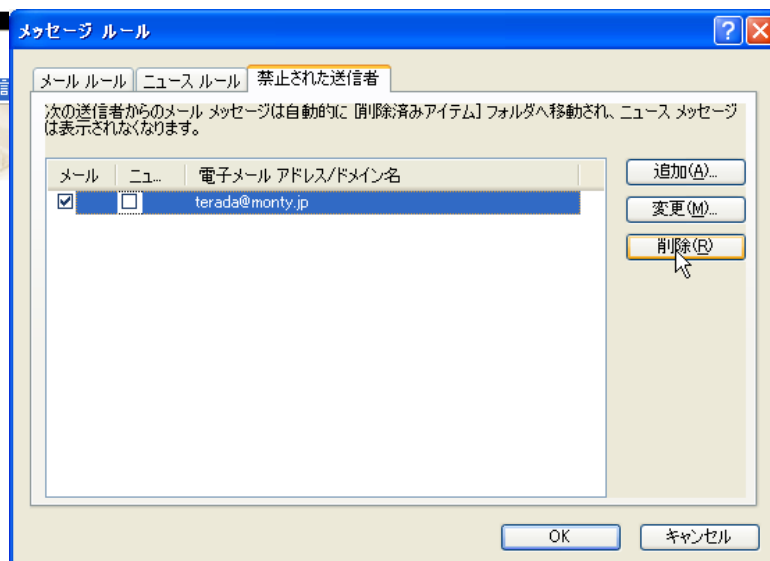


登録の確認画面と現在のメッセージを削除するかどうか聞いてきます。[はい]でも[いいえ]でもこの送信者からのメッセージは自動的に削除されるようになります。



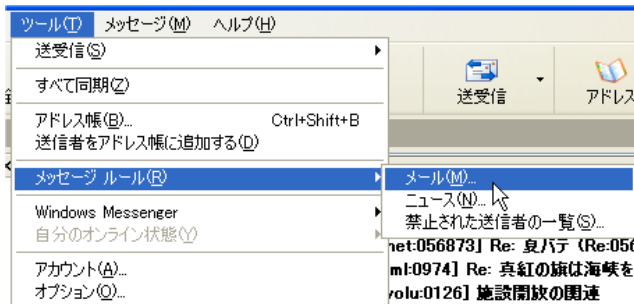
禁止登録された送信者の一覧は、[ツール]-[メッセージルール]-[禁止された送信者の一覧]で確認することができます。

このダイアログボックスで直接登録したり変更したり削除することもできます。



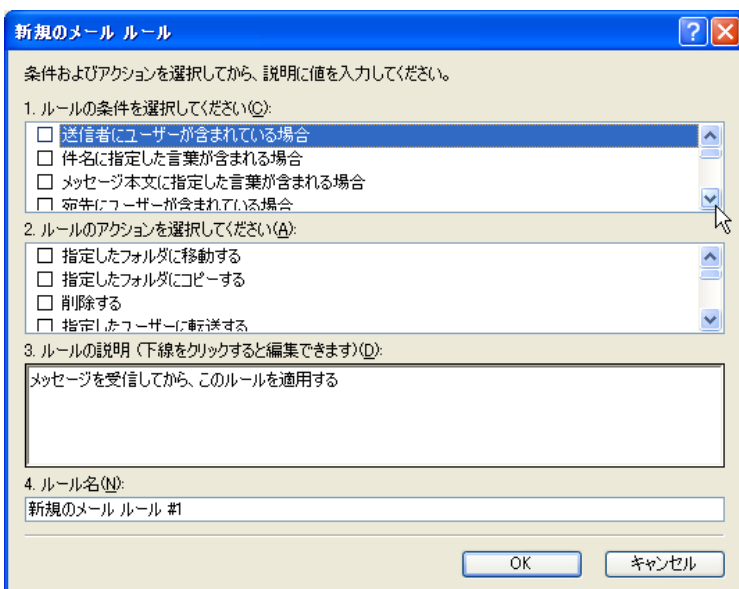
しかしながら、迷惑メールの送信者はこういった機能を熟知していて、毎回送信アドレスを変えて送りつけてくるものがしばしばあります。その場合には、振り分け機能を使えばもっと高度の設定ができます。

メニューバーの[メッセージ]-[メッセージからルールを作成する]を選びます。



メッセージルールのダイアログボックスが開くので、ここで詳細の設定を行います。

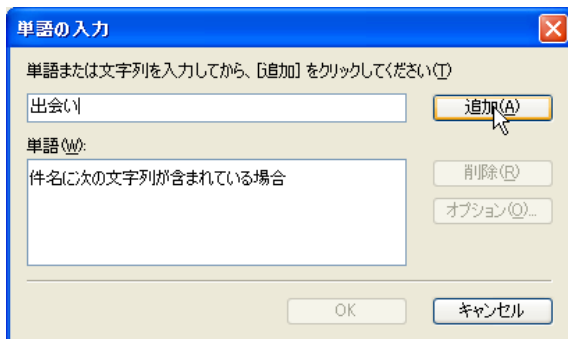
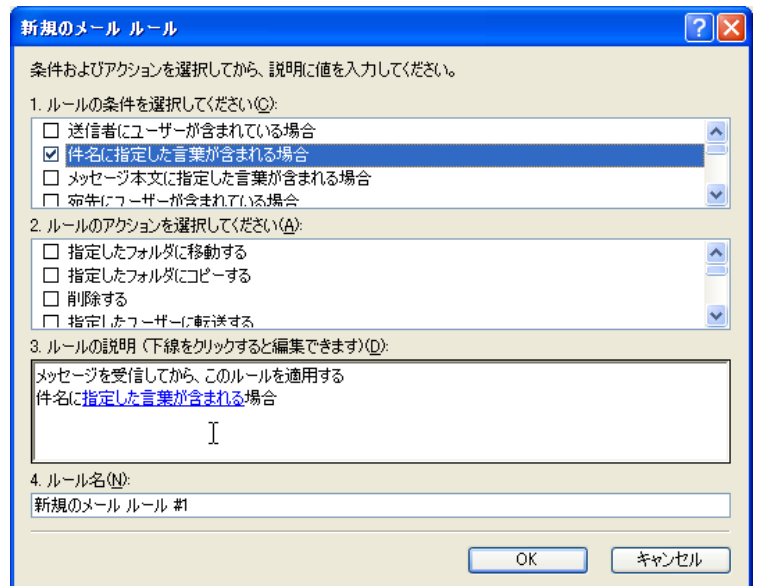
迷惑メールの多くはアダルトサイトへの誘いやねずみ講もどきが多いので、タイトルに「出会い」または、「絶対儲かる」というキーワードがある場合に削除する例を行っていきましょう。



メッセージルールのダイアログボックスの[新規作成]のボタンをクリックすると左図のような画面になります。

ここでは件名で判断しますので、「1. ルールの条件を選択してください」で「件名に指定した言葉が含まれる場合」にチェックをいれます。

すると、「3. ルールの説明」の欄に「件名に指定した言葉が含まれる場合」と出ます。青字でアンダーラインが引かれた部分をクリックすると「指定した言葉」を設定できます。

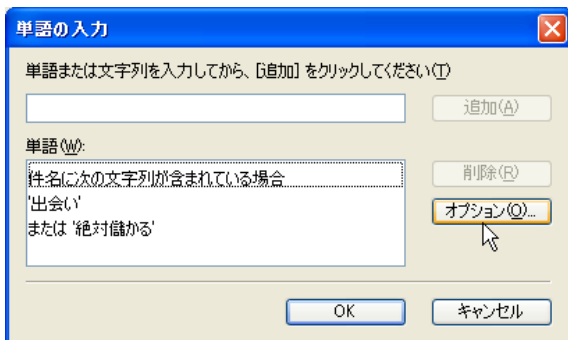


単語の入力画面になります。

ここで言葉を登録していきましょう。

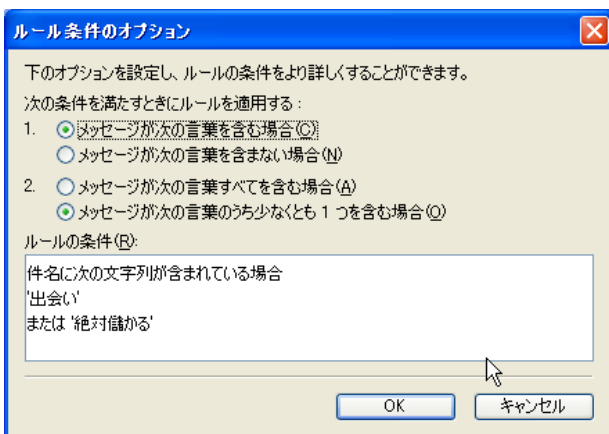
まず、上の欄に「出会い」と入力して[追加]ボタンをクリックします。すると下の「単語」欄に入力した言葉が追加されます。同様に「絶対

儲かる」という言葉も追加しましょう。

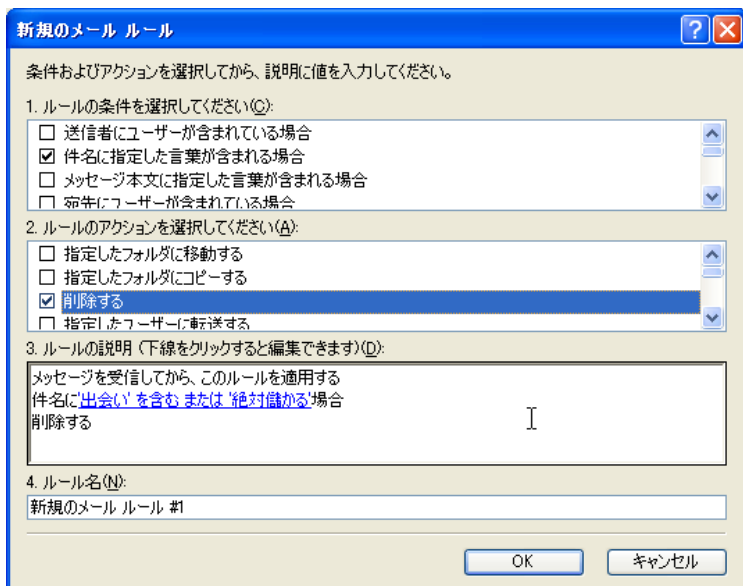


この場合は、「出会い」または、「絶対儲かる」という言葉がどちらかひとつでも件名にあるとアクションを起こします。

二つ以上の言葉がそろった場合にのみアクションを起こしたい場合などは、[オプション]ボタンを押して細かい設定をします。



1. が入力された言葉が含まれているかいないかの区別、2. が1つでもアクションを起こすのか複数の言葉がすべて揃ってアクションを起こすかの区別です。



条件が設定できたら、アクションを設定します。「2 ルールのアクションを選択してください」で「削除」にチェックを入れましょう。

3 に設定された内容が表示されます。

4 のルール名は自分でわかりやすいものにしておくと後で確認する時便利です。

このルールはいくつでも作成することができますので、必要に応じてどんどん追加していきます。

※「削除」は「削除済みアイテム」のフォルダに入るだけです。

迷惑メールのパターンはいろいろなものがありますので、それらのパターンに応じた設定をこのルールで作成してやれば、なお一層強固なものになるでしょう。

ルールの条件として用意されている項目

送信者にユーザーが含まれている場合

件名に指定した言葉が含まれている場合

メッセージ本文に指定した言葉が含まれる場合

宛先にユーザーが含まれている場合

CC にユーザーが含まれている場合

宛先または CC にユーザーが含まれている場合

メッセージの重要度が指定した重要度である場合

メッセージが指定したアカウントに送信された場合

メッセージのサイズが指定したサイズ以上の場合

メッセージに添付ファイルがある場合

メッセージが指定したセキュリティ状態である場合

すべてのメッセージに適用する

アクションとして用意されている項目

指定したフォルダに移動する

指定したフォルダにコピーする

削除する

指定したユーザーに転送する

指定した色で強調する

フラグを付ける

すべて開封

メッセージをマークまたは無視の状態に設定する

指定したメッセージで返信する

ルールの処理を中止する

サーバからダウンロードしない

サーバから削除する

これらは組み合わせて使用することができます。ただし、項目によっては必要とするメールが削除されてしまったりするので、充分注意して設定してください。自分のメールアドレス宛にテストメールを送るとか知人同士で試してから行うとよいと思います。